

船舶事故調査報告書

令和3年6月23日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和2年6月29日 06時00分ごろ
発生場所	岩手県大槌町吉里吉里漁港 吉里吉里港東第2防波堤仮設灯台から真方位094°400m付近 (概位 北緯39°22.4′ 東経141°57.2′)
事故の概要	漁船満漁丸は、操業中、岩場に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和2年7月9日、主管調査官（仙台事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	漁船 満漁丸、0.2トン
船舶番号、船舶所有者等	IT3-42426（漁船登録番号）、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	船底外板に擦過傷等
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 西北西、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の中央期、水温 約18℃
事故の経過	<p>本船は、船長及び甲板員1人が乗り組み、船首を東方に向け、船外機を停止した状態で漂流し、うに磯見漁（<small>かい</small>権を使用して漁場を移動し、箱眼鏡で海中を見ながら、やす及びたもと呼ばれる漁具を使用してうにを採る漁）を開始した。</p> <p>船長及び甲板員は、それぞれ右舷船首部でやす及びたもを持ち、舷外に身を乗り出した状態で、箱眼鏡をのぞき込みながらうにの探索を行っていたところ、本船が陸岸付近の岩場に乗り揚げ、その後、磯波を受けて転覆した。</p> <p>船長及び甲板員は、海上に投げ出されたものの、付近の岩場に自力で上陸した。</p> <p>船長は、操業に夢中になり、本船が船首方向に移動して岩場に接近していることに気付かなかった。</p>
分析	本船は、漂流して操業中、船長が、操業に夢中になり、陸岸付近の岩場に接近していることに気付かない状態で操業を続けたことから、陸岸付近の岩場に接近していることに気付かず、岩場に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、漂流して操業中、船長が、操業に夢中になり、陸岸付近の岩場に接近していることに気付かない状態で操業を続けたため、陸岸付近の岩場に接近していることに気付かず、岩場に乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考え

られる。

- ・ 船長は、磯見漁を行う際、浅所に接近しないよう、船位を的確に把握するとともに、適切な周囲の見張りを行うこと。